張秀紅さんとの出会いとドキュメンタリ―『証言者張秀紅』

2016 年 12 月 19 日に亡くなられた張秀紅おばあさんの訃報をまず一番に松岡さんに微信で知らせました。

私が初めて張秀紅さんの家を尋ねたのは、南京師範大学の張連紅先生が「南京の被害者張秀紅さんを松岡先生に会わせたい。」と言われたからでした。松岡先生はその時にはすでに南京大虐殺の証言者の調査をしていて、被害者を探し回っていました。私は、約 20 年前から松岡先生のために一緒に南京を車で走り回り被害者を探し見つけ、通訳をしていました。（私のほかに 2 名の南京人の通訳がいました。）

張秀紅さんを探して南京白下区の一条巷にある古い共同住宅を訪れました。2006 年の当時は旦那さんも亡くなられて一人住まいでしたが義理の妹さんも近くに住んでいて、よくおしゃべりに行っていたので、私たちはその帰りを待っていました。話す言葉も大きく良く冗談を言う人でした。しかし証言を話すと険しい顔で別人になってしまうのです。辛かったのでしょう。映像『証言者―張秀紅』にもありましたが、強姦されたのはまだほんの子供で、銃剣を突き付ける日本兵の言うままになったのは、「お祖父さんの命を救うためで、そうしないと二人とも殺されるから」と言われていたのが印象的でした。もう一つは、「南京大虐殺の被害者である趙広福さんと結婚し、幼かった二人の被害者が共に生きる」と話されたことでした。張秀紅おばあさんは「夫はよい人だった。」とよく口にしていましたね。松岡先生も旦那さんの写真が部屋にかかっていたのをよく目にして、張お婆さんに聞いていましたね。

私は松岡先生と一緒に幸存者の家に行って調査したり、先生が主催する食事交流会には事前に老人たちのご家族に連絡しました。みんな大変喜んでおられました。老人たちの体が不自由になり、先生と一緒に家庭訪問する「心のケア」は幸存者もご家族も先生たちの訪問をいつも心待ちにされていました。

日本で『証言者-張秀紅』が上映されることになり、本来ならば制作者の江蘇電視台がより多くの日本人に知らせるべきと思います。松岡先生は、1997 年から 15 年間もご自分が調査した証言者を日本に招いてこられたが、老人たちが高齢の為日本へ行くのが難しくなった。（※松岡が老人たちの家族が心配する声を聞き館と相談してストップした）南京の映像を日本で広めるのは難しいことで、今は「証言集会」に続く、「証言の映像」を上映する企画を続けているのはすごいことだと思います。この作品には松岡先生が撮影した映像を提供されました。

私は特に松岡先生と 1998 年から南京での聞き取り調査を集中的に行いました。記憶では、私がご案内した被害者は 150 人以上訪問したと思います。それ以前は紀念館で外国人に話せるようにトレーニングされた幸存者から聞き取りをしていましたが、先生は街の中に出て一軒一軒訪ねて撮影していました。時には公安に問い詰められたりしましたね。特に感心したのは、松岡先生の聞き方は、集団虐殺にしても自分が体験したのか、その場で見たのか？どこで見ていたのか？それとも人から聞いたのか？と徹底した聞き方をしたのに感心しました。これまでにない調査の仕方でした。幸存者の恨みや苦しみ、家族の厳しい生活が伝わってきました。

江蘇電視台のこの作品『証言者 - 張秀紅』は、一人の証言者に焦点を当てて資料を残すことは大変大事と思う。中国では 2016 年の 12 月に放映があって、張秀紅さんは 1 週間もたたないうちに亡くなられた。他の証言者も今年だけでも何人もなくなりました。だから、テレビのドキュメンタリー制作は歴史の事実に基く証言者の作品を残してほしいと思います。　　【南京調査の通訳　盛卯弟】